

第13回 MBI（マルチメディアを基礎にした教育）発表会プログラム

日時：平成23年2月15日（火）13:00～17:00

場所：フロネシス講義室1（8111）

司会：岡田 嘉仁（13:00～14:30）・和田 義親（14:50～15:50）

※ 1演題20分 発表時間15分 質疑5分（入換時間含む）

13:00～13:10

開会の辞：久保 陽徳 学長

1. 13:10～13:30

テーマ：**症例解析演習Ⅰ（4年前期）でのPBL problem-based learning 授業実践：
ホームページ活用による導入と復習**

石橋 賢一（病態生理学）

要旨：臨床シナリオ（英語）を9名1班による1時限のSGDのあと1週間後、1時限でプレゼンするサイクルを7臓器した。プレゼンは9班1クラスで全4症例。教員(11名)は各時限2名でSGDを巡回し、プレゼンでは司会。症例の翻訳、プレゼンのPPT、音声、ビデオ、模範解答を専用webページにアップした。症例のポイント集を配布したあとに中間試験。定期試験では症例に関する応用問題を出題した。授業アンケートをwebでおこなった。

2. 13:30～13:50

テーマ：**対面授業における受講意欲と学習効果**

和田 義親（薬学教育研究センター）

要旨：対面授業では学習者自ら学ぶ意欲が学習効果に大きく影響すると思われる。基礎物理学では授業毎にその日の学習内容をまとめた復習課題を課し、自ら学ぶ切っ掛けを提供している。その復習課題への取り組み状況から読み取れる学習意欲と学習効果を比較したところ、課題への取り組み回数の多い者ほど定期試験の成績が高いことが示された。

3. 13:50～14:10

テーマ：**Webメールを利用したレポート提出に関する考察**

渡邊 誠（医薬品評価学）

要旨：事前実務実習のレポートをWebメールに添付させて提出させている。この時の学生から送られた188通のメールの形式を分析したので報告する。全体的に、宛名のないもの、本文が無いものなどが見受けられ、署名などを利用している学生は、ほとんど見られなかった。現在の学生は、PCを用いたメールでなく、携帯メールを多用していると考えられ、送られたメールには、携帯メールが色濃く反映していた。今後のIT教育ではPCでのメールの形式についても取り上げる必要がある。

4. 14:10～14:30

テーマ：**英語学習におけるITツールの利用について一発音面を中心に**

林 弘美（英語・英語学）

要旨：昨年10月のITコンソーシアム（ポスターセッション）において、英語学習におけるITツールの利用について本学の学生の状況を報告しました。その内容を踏まえ、今回のMBI発表会では特に発音面を中心に授業での取り組みを含めて発表させていただきます。

<<休憩 14:30～14:50>>

5. 14:50～15:10

テーマ：「**薬の科学実習I**」における化学系実習でのIT機器利用の紹介

辻本 利雄（薬学教育研究センター）

要旨：本学では、全ての教室にIT機器が用意されており、それを利用して効率的、効果的に講義が工夫されている。実習室にもインターネット接続のコンセントが設置されているので、その活用を模索した。

1年生実習、「薬の科学実習I」における化学系実習では、可動式ラックに設置したIT機器を利用して説明等を行っている。

この実習説明方法は、細部まで鮮明に見えるなどで、学生から高く評価されている。その設備と利用法を紹介する。

6. 15:10～15:30

テーマ：**構造活性相関解析用ソフトウェアの紹介**

植沢 芳広（臨床薬剤学）

要旨：本発表では、OECDによる国際プロジェクトによって開発された「QSAR Toolbox」を中心に定量的構造活性相関(QSAR)解析ソフトの使用法を概説する。

QSARとは化合物の構造から得られる脂溶性などの情報から、薬効、毒性などの生理活性を推定するために用いる解析手法である。

QSARは創薬過程のインシリコスクリーニングにおいて重要であるとともに、近年では環境毒性推定のため積極的に活用する気運が高まっている。

7. 15:30～15:50

テーマ：**タンパク質のバイオインフォマティクス**

野口 保（産業技術総合研究所 生命情報工学研究センター）

要旨：近年、生物学や生命科学の情報の急激な増加に伴い、バイオインフォマティクスの技術が様々な場面で利用されている。

バイオインフォマティクスと聞くとゲノムをイメージする人が多いが、バイオインフォマティクスは生物学のあらゆる階層（特に、ゲノム、分子、細胞）の解析に利用されている。

本発表では、対象を生体高分子であるタンパク質に絞り、バイオインフォマティクスの技術により、どのような解析ができるかを紹介する。

15:50～16:00

講評：阿刀田 英子（教務委員長）